
=== 日程第3 一般質問 ===

議長（村松 積） 日程第3、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、3番、金田憲治君、4番、宮嶋怡正君、1番、小池昌人君、2番、串原寛治君、以上5名から通告されております。

宮嶋清伸

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

先ほど、村長、議長からも話がありましたが、下條村の税金、住宅料、保育料、水道料、介護保険料等の村の徴収率が21年度も100%の完納を達成したことは、関係職員のご労苦に敬意を示し感謝申し上げます。

このことを泉崎より下條村に研修に来ている星さんに、今日も傍聴席にいらっしゃいますが、聞いたところ「すごいことだ」とびっくりしておりました。

この100%完納を続けていることは、ひとえに職員の任務に対する強い責任感と村を支える住民一人一人の意識が、現在の安定した財政運営を築き上げていると確信し、誇りに思います。

今回、私は、下條村の福祉関連の充実施策と企業誘致施策について、村長のお考えをお聞きします。

まず、はじめに、村の福祉関連の充実施策について2つ質問をします。

22年度下條村の施策では、合併浄化槽の保守点検料3/4補助、汚泥引き抜き1/2補助、医療費給付を高校生まで拡大など、住民からは喜びの声をお聞きしております。

しかし、国政は民主党に政権が変わり、マニフェストでは暫定税率廃止、高速道路の無料化、子ども手当2万6千円と国民は期待したものの、財源不足、首相も8カ月で退任するなど、国民はどうすればよいのでしょうか。

そこで今回、私は、国政がどう変わろうとも今まで下條村を支えてきてくれた高齢者に対し、老人医療費の半額補助を提案するものです。現行の後期高齢者医療制度や前期高齢者医療制度の時限立法での負担割合の軽減が実施されていますが、先行きが見えません。

高齢者医療に関しては、既に東京都の日ノ出町、原村が医療費特別給付として申請者が毎月役場へ領収書を提出する方法で老人医療費の助成を導入していますが、下條村では申請者の負担軽減と事務費削減を考慮して、現行の福祉医療費給付事業を利用した方式で、高齢者の医療費をまずは半額する施策を行うべきだと私は考えますが、村長のお考えをお聞きします。

この件に関しては、宮嶋怡正議員からも関連質問が通告されておりますので、その時に答弁をお願いします。

次に、福祉関連充実施策として、保育所に幼児体育の導入についてお聞きします。

3月に行われた保育所の卒園式に参加していた中学校の田中校長より「これだけ元気な子供がいるなら、保育所に週1回でも保育体育のインストラクターによる指導を行えば、中学へきたときには学力が向上するので導入すべき」との助言をいただき、私なりに調べたところ、体育を伸ばせば知育が伸びると、都会の多くの幼稚園や小学校の低学年を対象に、育児体育指導員が指導しており、育児体育がセールスポイントとして幼稚園の募集に使われております。また、育児体育の専門学校や専門機関が急速に増加しているのも、時代背景だと推測します。

そこで子育て支援の下條村としては、学力向上を保育所から行うために、幼児体育指導者による指導を導入すべきだと私は考えますが、村長のお考えをお聞きします。

続きまして、企業誘致施策について質問します。

下條村は、自然環境に恵まれ、行政による企業誘致推進策により、いくつもの工場が下條村に来ていただいております。しかし、製造業は製造原価の安い中国やインドにシフトしております。

中央リニア新幹線は、2027年に開通が延期になったと報道がありましたが、将来を見据え、東京・名古屋・大阪を1時間以内で移動できる利点を強調し、大学や各種研究機関の研究所やソフト関連の企業を村長のトップセールスで今のうちから進めるべきだと私は考えますが、村長のお考えをお聞かせ願います。

以上で私の質問を終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 第1段階、高齢者医療の負担についての質問がございましたけれども、

答弁は宮嶋怡正議員の方にしてくれということでございますので割愛いたします。

前段に完納のお話がありました。下條村、本当に今、全村民の皆さんのご協力をいただいて、そしてまた職員諸君の大変な努力によって、今年も完納率100%ということでございます。これが30数年続いておるということございまして、これは驚異的でございます。

今度県もだいぶ滞納がたまってきてしまっておるということで、全県下の市町村が悲鳴を上げております。だから、徴収業務を一括でしましよ、何というようなばかみtainな協議会を設置いたしました。

私もその審議委員の1人として参画しておりますけれども、私は絶対にそれは反対でございます。そんなばかでかい機構を作って、そして駆け込み寺みたいで、努力をしなくておいてそこへぶち込んでしまうということになったら事務経費は上がる、効果は上がらない。また私は滞納率は上がってくるということございまして、これは自治体の最低義務、税収というのは物事の運営するときの一番基本になる原資でございます。その原資を公平、公明なる形で課税して、その原資たるものを自分で集めるなんていうこと、自治体の一丁目一番地であろうと。苦しいことをみんなどっかへ持っていけば何とかなる。こんなことで世の中は簡単には良くなりません。

私たちは充実、独立、自分で自分を律し、そして自分で立つぞという、自立を目指した以上は、これは今一生懸命やっておるところでございますけれども、これは本当に大変でございます。

なんで取るというか、なんでいただくかということでございますけれども、これは1回手綱を緩めてしまうとパンドラの箱を開けたようなものでございまして、それじゃ「あいつが納めておらなしに文句があるんならこれはいいじゃないか」とか、「給食費ぐらいなんかとかしろ」なんていう話になってしまうわけでございますので、これをこれからも続けるという。ただ、形式を作って何とか言って「県もこうやっております」なんてそんな茶化けたことを言うんでなくて、それ前に汗をかけと。知恵を出して汗を個々の自治体がかかなければならないということございまして、私も大反対しておりましたけれども、最終的にはどうしても難しい問題だけはそこへ持ち込めよと。そこで経費のかかったものは、それは投入者が当然負担します。自己負担と。これでやるんなら賛成だということ

やって、そういう状態になっております。

その中には、どうしても払いたくても払えない急激な事情の変化があって、いろいろの場合もあるわけでございますけれども、それはケースバイケース。そして弁護士なら弁護士を入れて計理士なら計理士を入れてきっちりやるということで、やるべきであろうかと思えます。

それから保育所の幼児体育の導入についてということでございまして、幼児体育の良さとしては今議員も申されましたように、幼児期の運動は脳を発達させ、感情が抑制できるようになるなど、子供の行動に大きな変化が見られる。体を動かすこと、脳の運動を活性化すると前頭葉全体の血流量が増し、結果として判断能力・抑制力が備わり、感情がうまくコントロールできるようになるなど、幼児期の積極的な運動は集中力を生み、自分で判断することのできる心身ともに健全、健やかな子供をはぐくむことができると、こういうふうになっておりまして、中学校の校長先生の言うておることは間違いないなということと、都会で特にこの問題が一生懸命取り組んでおるそうでございます。

実は私の孫も都会におります。「80m競争でカーブでこけてしまって僕はビリになった」というような報告がありました。相当自信があったそうでございますけれども。なぜそのことを言うかということ、都会のグラウンドというのは80mを直線で取れないわけでございます。80mを回りで取る。私も学校行って見たことがあるんです。これが屋外体操場かという、グラウンドかというような狭いところでやっております。特に都会はそういう傾向があるかということと同時に、私たちは先生の言うこと。この場合、田中先生の言うことは正確でございました。

なかなか先生も今一生懸命やっておってくれますけれども、私の長いこの歴史の中で、先生もなかなか勇敢な先生がおりまして、両論併記でいろいろ裏付けを取っていかないと危ない場合があります。特にある時代のある校長先生は、急に思い出して避難階段をでかいものを作らんと、「私は責任持てません」と建築法に沿って防火シャッターもあるしベランダもあるしこうだといって言ったんですけれども、どうしても思い立ったら寝れないということでございまして、教育委員会とやり合っておるうちに、今度は先生の特権で父兄を盛り上げて作られました。7～8年で膨大な金をかけて取り壊し、今形もありません。

こうした前向きな提言には、私どもも取り組んでいかなければいけないということと同時に、既に今いろんな方式がございます。今、澤柳運動プログラムという、松本大学の教授が考案したものがあろうございまして、これに対して今保育士の諸君も交代で講習に出たり、それから既に実務で取り組んでおるところでございます。

今の特に情操の感情がうまくコントロールできるとか、判断能力・抑制力が備わるといふことになると、今の子育てに一番大事なものでございますので、これからもこうしたものについては積極的にやっていくつもりと同時に、この判断力・抑制力ということと同時に、保育所も含めまして信大と連携して教育ソフトを作りまして、今それなりの成果を上げております。そのことにつきましても、宮嶋議員大変ご協力いただいておりますのでございまして、そのことに感謝申し上げますとともに、またいろんな情報を収集しながら、今やっておるそのレベルも時には見ていただいて、またご指導いただければありがたいと思っております。

企業誘致施策でございますけれども、研究所の誘致についてどうするかということでございます。これから我が国が生き延びていくには、これからは資源の競争になるということをおっしゃっております。今のシンクタンクもそうでございますけれども、特に油も出ない。それからレアメタル、希少金属なんていうのはほとんど採れないということでございまして、今希少金属の奪い合いでございます。

中国のあのモンゴルの方でございますけれども、あの広大なところにリチウムだとか希少土、レアアースというのが非常に出るわけでございますけれども、それでありながら今中国の大戦略としてアフリカの方のレアメタル。その資源に対して徹底的に買いあさっておるということでございまして、なかなか大したもんだなということでございますけれども、日本は送ればながら商社が中心となって今良質な石炭だとか、そうしたレアメタルやアースに対して積極的にやっておるところでございますけれども、よほどシンクタンクの優秀なものでないと生き残っていけないということは確かでございます。

特にあの人的資源、中国、それからインド、ベトナム等、コストも安いということでございまして、いずれの日にかは何とか手を打たなければ、経済大国世界2位だなんて言っておりますけれども、今年は中国が2位で3位になることは確実だそうでございます。ところが、シンクタンクは絶対作らなければいけないんですけれども、今の世の中はシンク

タンクそのものが買収されるような世の中になってしまっておるわけでございまして、日本に根付かしたからいいということではなくて、そうした情報管理だとかその保持、そしてシークレットの分野を非常にこれは重視しながら基本的にはその分野で生きていくことが最高だと思っております。

トップセールスで大いにやれということでございますけれども、今私は私なりの人脈を使ったり、それから私なりの今までのいろいろな経験も踏まえておるわけでございまして、こんなときということで一生懸命やっております。

特に大学やなんかで講演を頼まれると、もう積極的に行って、私は講演するんですけども、その大学生、教授、准教授の意見をよく吸収してくるということ。それで新しいまたそこに目覚め、進歩があるわけでございまして、そんなことも一生懸命やっております。

ハードの工場誘致としても60年代に東海興業、山岸、エスアイテック等の誘致をして、今積極的に頑張っております。いつも言うんですけども、私どもは若者を誘致して、そして若者、企業は人なりでございまして、優秀な人材を既存企業に送ってやるということで、企業の体質は強くなるわけでございますし、村内企業、村内で育ち村内で育てる企業の皆さんも一生懸命やっております。死ぬか生きるかでやっておるわけでございますけれども、そうした皆様のためにも、私どもは大いに今ある企業をより強くしてやる。そしてその中で、また今のトーア電子みたいなのもお願いしながらやっていくということでございます。

ただ、今あるものはこうで、またやたらに目を広げるといってなして、下條村に沿ったIT企業はこれからも入れなければいけないということと、それに伴う研究機関。今下條村へリニアが開くときには30分から35分で来れるわけでございます。ちょうど首都圏でいうと八王子からずっと船橋、この円を描いた圏内に下條村が入るということでございますので、そうした時代は2025年となるとかおっしゃりましたけれども、2027年になるかもしれんし、前倒しもあると。

今リニアはちょっと忘れましたがけれども、その研究会の中で、どうせやるんなら大阪までを同時着工せよというような話も、勢いのいい話もあるわけでございますけれども、そうするとJR東海はあるいは前倒し、2027年でなしに2023年という2022年ということもあり得るといって、このフレキシブルな対応の中で早め早めに手を打っていくこ

とが必要ではないかと思って考えておるところでございます。

また、議員も人脈があるわけでございますし、若手も大いに集めているんな勉強会をしておるところを私も垣間見ております。ぜひそうした新しい情報、新しい感度でまたひとつご指導いただければ幸いと思っております。

以上で終わります。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問ありましたら。

6番、宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 今、答弁の中で、大学などの講演に行かれていたという話がありまして、先日も東大の方に行かれたということで、一言ですごいなということなんですけれど、その大学に講演に行く前に学生がよく一度下條に訪れるというような話も聞いているんですけど、その時に下條村を見ていってもらっているとは思うんですけど、そこら辺でまたそういう講演に行くのもいいんですけど、できればその各大学とかそういう人たちをコスモホールに呼んで、村長の講演をして、下條へ来てもらって、「ああこんなにいいところなんだな」と。それこそ今村長言われた30分から40分内で首都圏から来れるという位置なんで、その辺で村長としてそのような学生なり企業に対して、下條に来てもらって講演をするというようなことを積極的にやっていただきたいと思いますが、その件についてどうでしょうか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 当然やっております。

それから講演に行くということになると、あのさしもの広い東京大学、地下鉄で行くと一駅くらいある中に、例えば樹木だっとうっそうとして、例の安田講堂なんか本当に拝みたくなるくらいのところでございますけれども、その廊下に「下條村長来る」ということで案内が貼ってあります。

非常にPRになると思えますし、当然講演の中でも水清き自然豊かだこうこうだということで、PRはおさおさ怠りなくやっておるところでございますので、いずれの日にかはまた効果が出ると思えますので、ご期待いただきたいと思えます。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君。